



明峰

令和7年7月3日

第8号

校長 岡野利男

※第7号「紐解く(前編)」について、保護者の皆さんから、「私は、明峰中学校1年目の1年生です。確かに私服で登校しました。」などなど、多くの感想をいただきました。読んでいただき、ありがたい限りです。

紐解く (後編)

次の12校の共通点は何でしょう…。

県央中学校、西陵中学校、上栄田中学校
御破野中学校、栄昌中学校、栄明中学校
東諫早中学校、栄中学校、御館山中学校
峰原中学校、本明川中学校、富栄中学校…

第7号「紐解く(前編)」と同様、クイズめいた書き出しとなりました。もう、お分かりでしょうか…。

昭和60年に誕生する新しい学校の「校名」については、広く一般から募集されたのだそうです。集まったのは、なんと56案。今回は、応募された56案のうち12案を紹介していますが、それぞれにちゃんと意味や願いが込められていることが分かりますよね。一つ一つ、「なるほど」と思います。

募集期間がいつからいつまでだったのか、ネットの普及もない時代にどのような方法で呼びかけがなされたのか詳細は分かりませんが、一つ、はっきり記録が残っていました。明峰中学校の前身が「本野中学校」であったことは、前編でお伝えした通りですが、その本野中学校の「学校沿革誌」に次の手書きの記録が…。

昭和59年 7月9日

2の1 峰 敏光 新校名「明峰中学校」の名付け親として、市教育委員会から記念品を受ける。 学校長引率。教育長室。

明峰中学校の名付け親は、なんと、当時、本野中学校第2学年に在籍していた峰敏光さんという生徒だったのです…。そして、皆さんお分かりになるかと思いますが、その峰敏光さんは、翌年、昭和60年に、明峰中学校第3学年に進級されます。そう、明峰中学校第1回生なのです。

今回、私は、名付け親である峰敏光さんのお兄

様に取材することができました。大変丁寧に対応いただき感謝しています。それでは、お兄様から聞いたお話、紹介しますね。



「実は、名付け親、つまり応募したのは弟であることは間違いないのですが、父親のアイデアによるところが大きいのですよ。明峰中の校舎が建っている一帯は、『峰原(みねばる)地区』と呼ばれていて、その峰原で明るい学校生活を送れるようにという思いのもとで、応募した名前なんです。」とのこと。感激しました。名付け親は峰さん親子でした…。

選考委員が何人で構成されたのかは記録にはありませんでしたが、最終的に、2位以下を大きく引き離れたという事実は記録されています。こうして、新中学校の名称は、「明峰中学校」となります。洗練されたいい名前だなあと、35年前に赴任した時から思っていました。そういう経緯があったとは、こうして調べないと分からないことでした。

さて、余談ですが、右下の地図をご覧ください。

①から④までの都市には共通点があります。実は、この4つの都市は、「明峰中学校」という名称の学校が存在する都市なのです。

つまり、諫早市立明峰中も含めて、全国に5つの明峰中学校があります。



5つの明峰中のうち、本校は2番目に年上の学校です。一番年上は、地図中④の兵庫県川西市立明峰中学校。創立48年。本校より8歳年上でした。逆に一番年下は、②の富山県黒部市立明峰中学校で満5歳です。①は、秋田県横手市にある明峰中ですが、ここだけは、「横手明峰中」と市の名前が頭に付いています。③の常陸大宮市立明峰中の校長先生は、とても楽しそうに明峰中の名称の由来を教えてくださいました(電話取材しました)。本校と同じように、三つの中学校が合併して生まれた学校であり、名称も同じく一般公募したのだそうですが、条件として、①地名を避けること。②合併する三つの学校名を避けることが条件だったそうです。

「気になることはとことん調べる」久しぶりに社会科教師の魂を思い出して頑張りました(>_<)。